

**¡Hola!
dos cerveza,
¡buen camino.**

Kazuya Morishima

!sloH!
'sz9v19c 2ob
!Hols!

¡Hola! dos cerveza, ¡buen camino.

Kazuya Morishima

**!sloH!
'sz9v19c 2ob
!Hols!**

!Hols!
'sz9v19c 2ob
!Hols!

おはよ。こんちわっ。

iHola!

こんばんは。

ビール2本ちょうだい。

dos cerveza.

道中、ibuen camino. 気をつけて。

毎日必ず口にしていた言葉です。

iHola!
dos cerveza,
ibuen camino.

とあるところに

30才のモノカキと

45才になるシャシントリの二人の男がおりました。

ある日、モノカキがシャシントリに

「スペインを東から西へ800km、ひと月かけて歩かないかい」

そして「一緒に一冊の本を作ろう」と、さそいました。

帰ってきてから2年半がたち、

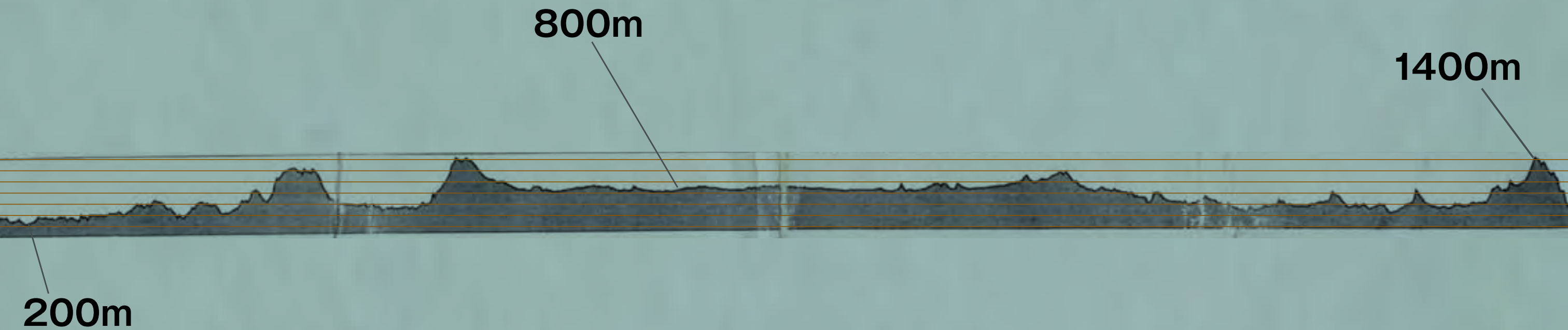
モノカキはなぜかモノがカキあがりません。

シビレをきらしたシャシントリは、うごきました。

El Camino de Santiago
サンティアゴへの道

el oeste
西

el este
東



**¡Hola!
dos cerveza,
¡buen camino.**

30 Agost -16 Oct. 2009

1 30 Agosto **0km**

ともに素敵なの女が好き。なのに48日もの間、男馬鹿二人。

ともに歩こうと言いだした、いい男か松尾仁。

巡礼、そのはなしに乗る。



2 31 Agosto 7.8km

ぼんやりしていた。
なぜにモンパルナスから
電車乗り継ぎ8時間、
国境近くの村
サンジャンピエドポーに
向かうのか。
っていうか
ここフランス、
スペイン^{めくるめ}目眩く
巡るんじゃないのか。
兎に角2009年8月31日、
さあってとこで
カメラ、アスファルトに
落っことした。
これから始まる実感
曖昧なままに。





3 01 Sept. 33.3km

真っ暗の早朝6時いよいよ歩き始める。

唐突にピレネー越え、山っす。

喜怒哀楽真ん中2つがいたりきたり
身心を支配。

ああああもおー、エッ、はあああ。ううっ。

肩股関節ひざ爪先手当たり次第の激痛に焦る。

冷たい雨風、霧、渴く喉、羊と目が合う。

どの辺りを心身の基準にすれば良いのか

さっぱり見当がつかず10時間11分、

簡潔に肝心なことを思う。

どうなんの俺達。











4 02 Sept. 31.9km

発酵した牧草の酸っぱい匂いに悶絶しつつ、がたびしゃがたびしゃ軋む身体で歩む。吸盤で額にくっつく東京で作ってもらった6本の角(つの)。人を撮る時々、相手の心持ちがガサッて動くきっかけになれば。Dennis 包容の人。コーラと煙草手離さず低く響く美声、深い微笑。キューバンアメリカン、この旅最初の友達になる。ピルグリム(巡礼者)のアルベルゲ(宿)は到着順。わっ、満杯空き無し。だからViva野宿。小さな広場、地元少年少女が溜まるその真横で、かつあげでもされんじかないかという空想を蹴散らす前に眠い。冷たくて硬い石のベンチの上で、冬山仕様ポーランド製の寝袋。まだ夏、寒くて暑い望んでなんかない状態。

Dennis







5⁰³ Sept. 25.8km

牛追い祭り

(実際は猛スピードで牛に追われ祭りだろう)
で名高い街パンプロナ。

昨夜の真逆反動のホテル泊。

バー回遊タパスつまみっぱなし

無論Cerveza(ビール)飲みっぱなし。

早くも3足中2足の指先に穴が空いたから、
急いで靴下を手に入れる。

隣の部屋に偶然、

ナイス&スムーズAlejandroチェックイン。

1964 Team 龍。







Alejandro





6 04 Sept. 14.4km

向日葵は枯れだしていたけどそれはそれで良かった。

朝、松尾はカフェで財布盗られた。

それは切なく。

空、曇ってる。

夜、魚のスープのおかわりをもらう。じっとしてない色々。



7^{05 Sept.} 27.4km

群青から青へ東の空が変わる。

太陽が射す自分の長い影を見る。長すぎる。

吹く風が強くて傾く。教会に入ってすぐに出る。

T字の形した電柱を見て

「髭剃りじゃん」昔なら「髭剃りやん」

初めて帰省した19歳夏、

地元京都の友達を前にして「～じゃん」

どつかれかけた。

26年になる東京。

Kimなかなかの木陰にて絶妙の脱力。

白い靴下真っ黒け。



Matsuo





OBANOS 2009

1 PASA

4 FALTA





Kim



8⁰⁶ Sept.

16.5km



朝4時44分、

道を白く照らす月の光にみとれていたら松尾とはぐれた。

幾度となくサイン(黄色い矢印)見落としし迷い怖じける。

闇から犬には吠えられるし。一転昼近く即青空。

肌は日焼け越え、こげだしてる。



日々を紡ぐ可憐な **Margareta**



9^{07 Sept.} 16.0km

坊主じゃなくなりつつある。刈るんじゃなく剃るかああ。

見過ごせないのは

働いてんだか遊んでんだかどっち、な働くおっさんの型。

トレスデルリオでSan Miguelがぶがぶ飲みながら

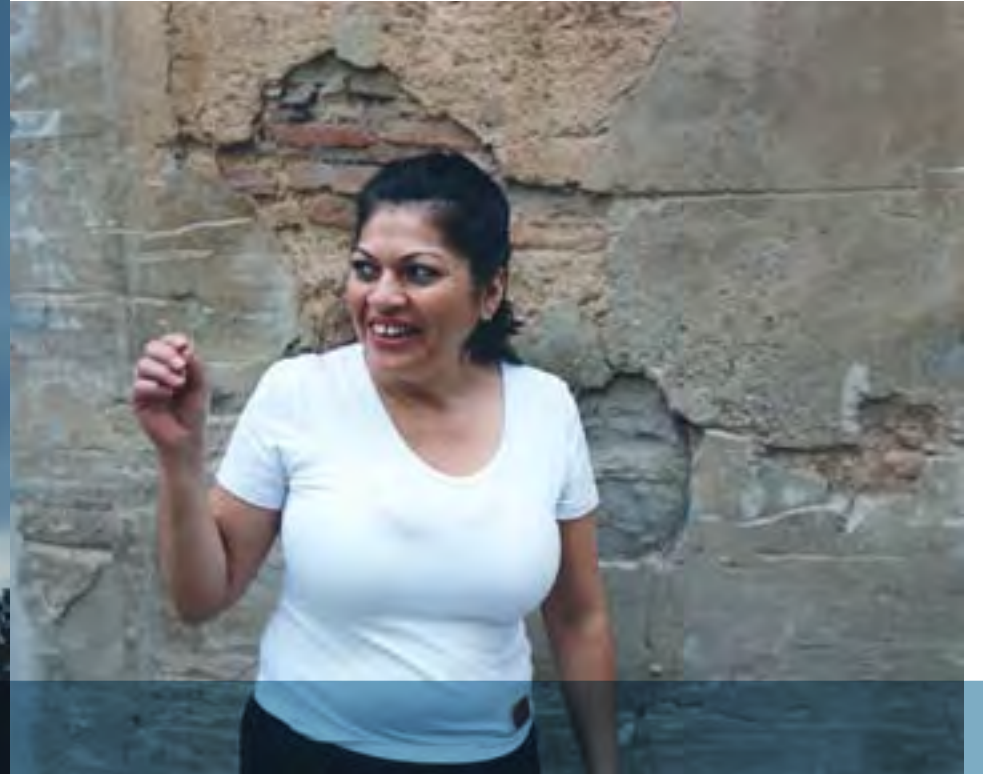
そうあり続けようと。

それにしても炙り過ぎじゃないのか赤びいまん。

正解かあれで。

撮りそびれた聡明なAnnは幸せの価値について真っ直ぐ語ってた。















Alex



10 08 Sept. 36.3km

2kmを戻りたくない。露出計をアルベルゲに置き忘れた。

別の1台は4日前に壊れたし。

頭をかかえてると首にそれをぶら下げ胸張り後方より現れたAlex。

その姿その行動が滲みる。



bien camina!

Q



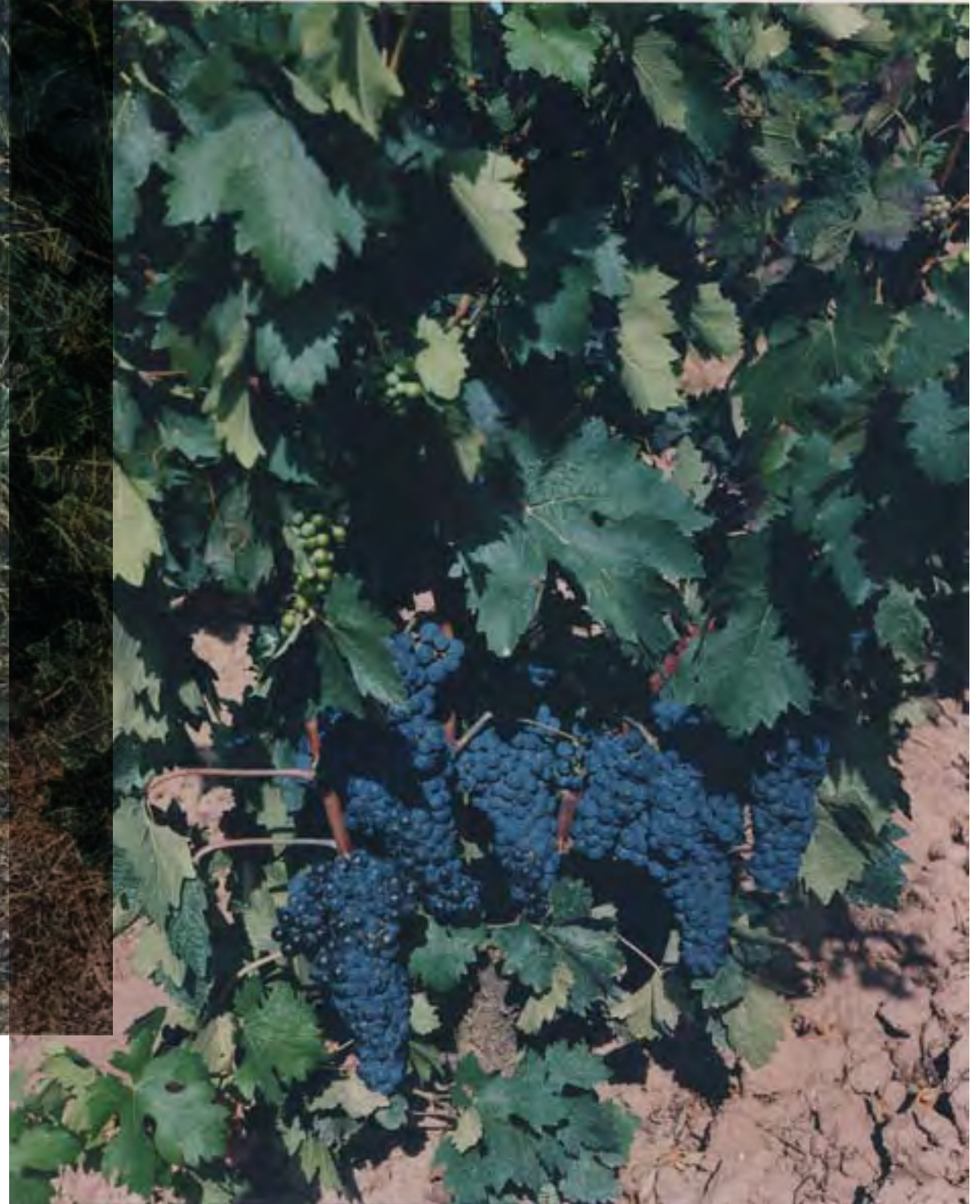
村から街から街、炎天下、街から町へと次第に道草も増え、
手にした毒々しい虹色のぐるぐるのアイスクャンディは騒々しいだけ。



11 09 Sept. 20.2km

広大な畑の小粒な甘い葡萄を頂戴する。軽快に皮を左右に飛ばす。頬が少し瘦けたかなと呑気にバナナ食べてたら、杖を兼ねた一脚ぱくられた父とその娘に。お前らにとっちゃ只の鉄の棒だろが。循環かこれ、盗ったり盗られたり。救急車が追い越して行き地味な村アゾフラに停まる。前を歩いていた老夫婦の旦那さんが亡くなっただけらしい。太陽の射す壁に立て掛け、酷使する靴に風を通す。間抜けなTシャツを買う。曜日を見失う。











12¹⁰ Sept. 29.8km

バックパックのストラップ、
背負う左の肩の辺りがこすれて糸がほつれだしたのを、
黙って松尾が縫ってくれた。
この美しい光景は忘れない。
迷ってしまった広い丘を猟犬の如く縦横無尽に駆け回り、
数日前に出会った医学生 Gabriele を導くのは
元プロレスラー Pascal。
まるわかりな恋路、ほぼ全速。





Pascal&Gabrile



una
familia
australiana





Federico

邂逅。

唯、もう、撮ろ。

元々生えてた^つろ角。

はしゃぐ心を松尾に見つかる。

素知らぬ顔で友人のAndreaは泳ぎに没頭。

海パンが羨ましい。





14 12 Sept. 26.2km

ぱんつ1枚紛失しばらくは残り2枚でゆく。海パン欲しがってる場合じゃない。
対蠅戦。顔付近、手で払い罵倒すれど一向にひるまず長引く展開に根負け。
もうやめて下さい。Alejandroとの再会に歓喜。妹のJoannaも一緒。
オルホという名の強い酒を皆に振る舞う。
パリで待つ嫁ミスプエルトリコ、天真の爛漫。







15 13 Sept.
19.6km

やけにでかい木の十字架が揺れて見えるのは昨夜の酒オルホ。





国道沿いのレストラン、ブエノスアイレスに入る。仕事で訪れた8年前
アルゼンチン、ブエノスアイレス。帰りの飛行機が飛ばずに足止めを喰う間、
或る女の子を撮った。今年の春になってようやく引き伸ばしたその写真には、
めくれあがったセーターの裾から覗くお腹の右側に、当時まったく気づかなかった
手術の跡の傷が写っていた。ブエノスとアイレスの意味、写真の意義。ブルゴスに着く。







尊大なゴシック建築世界遺産サンタマリア大聖堂の周りには
多くの礼拝者と観光客が交錯し、そのどちらにも到底交わることはなく。



Diego



16 14 Sept. 24.6km

満ちていた月が随分と欠けた。あ、解った。クリスチャン達は向かう先々の教会で祈る。自身にとってのそれはバーだ。一軒目朝一カフェコンレチェ(カフェオレ)、二軒目昼前もう Cerveza とトルティーヤオムレツ)、三軒目再び Cerveza、四軒目至極当然 Cerveza とボカティーヤ(サンドイッチ)。クレデンシャル(巡礼手帳)にスタンプ押して貰い煙草吸って安息。徳は積めてないなたぶん。前方よりこっちに向かってひょこやって来る Diego。逆向きということはサンティアゴからの帰り道、これにローマ、エルサレム三大聖地踏破の真っ最中が日常。ぺらぺらの貝の形のペンダントくれた。ハイ、バックパックマンと呼ばれるのはやどかりのようだから。負荷 20kg 皆 10kg 以下。で、横殴りの風が追い討ち無茶する。母 Brenda は満 60 歳の今年カミノ(巡礼路)を歩きたいと願ひ、息子 Jean Paul はそれに応じ、父 Bruce は車で伴走。しなやかな家族の形。

accès aux refuges qui offrent l'hospitalité chrétienne du chemin. Ces refuges ne sont pas gratuits ; il convient de laisser une obole même à ceux qui ne demandent rien ;

l'obtention de la "COMPOSTELLA" à la cathédrale de Saint-Jacques de Compostelle, est l'authentification de l'accomplissement du Pèlerinage effectué dans une démarche chrétienne. Elle ne peut être obtenue qu'à la A.M.I. Catedral de Santiago.

nécessaire de respecter le règlement des Pèlerins et d'y faire preuve de simplicité et de respect fraternel du bien-être des autres. Soyez silencieux pour ne pas gêner les autres.

Pèlerins à pied sont prioritaires par rapport à la bicyclette. Ceux effectuant leur Pèlerinage à cheval ou d'une voiture doivent rechercher des refuges distincts des Refuges de Pèlerins.

Le porteur du présent carnet de Pèlerin accepte les conditions d'usage.

Signature

Café Bar LU

Handwritten signature



Restaurante
Hostal
Café
Mesón - Pulperia
CAMINO DE SANTIAGO

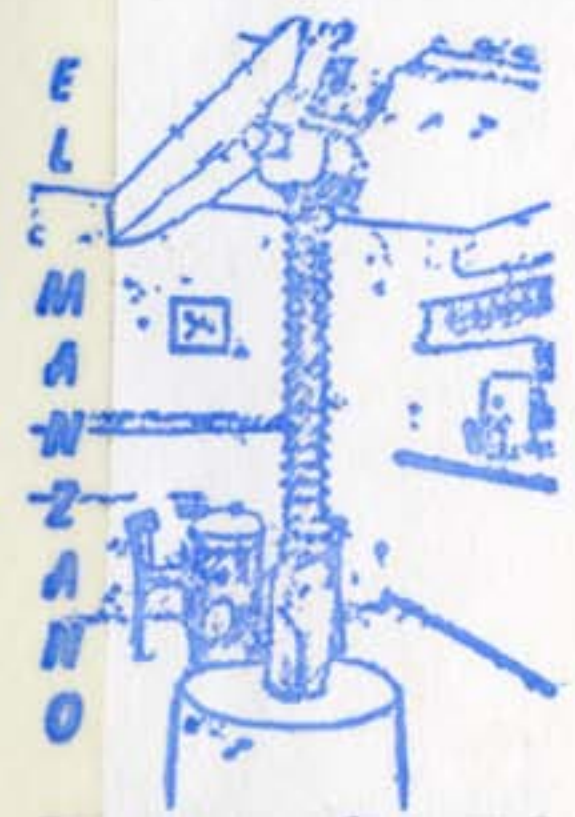
Tel: 982 545 303
Fax 982 545 307



Amigos del Camino de Santiago Burgos

13 SEP 2009

Pafas de Rey



EL MANZANO

R-09-09



13.09.09



Camino de Santiago

Itinerario Cultural Europeo

14 SEP. 2009

HONTANAS

CAFE-BAR O
Teléf. 98
HOSPITAL

CIF 76777511-S
SANTIAGO



7/10



Bruce, Blenda & Jean Paul



Christiano & Noemi



17^{15 Sept.}
24.2km

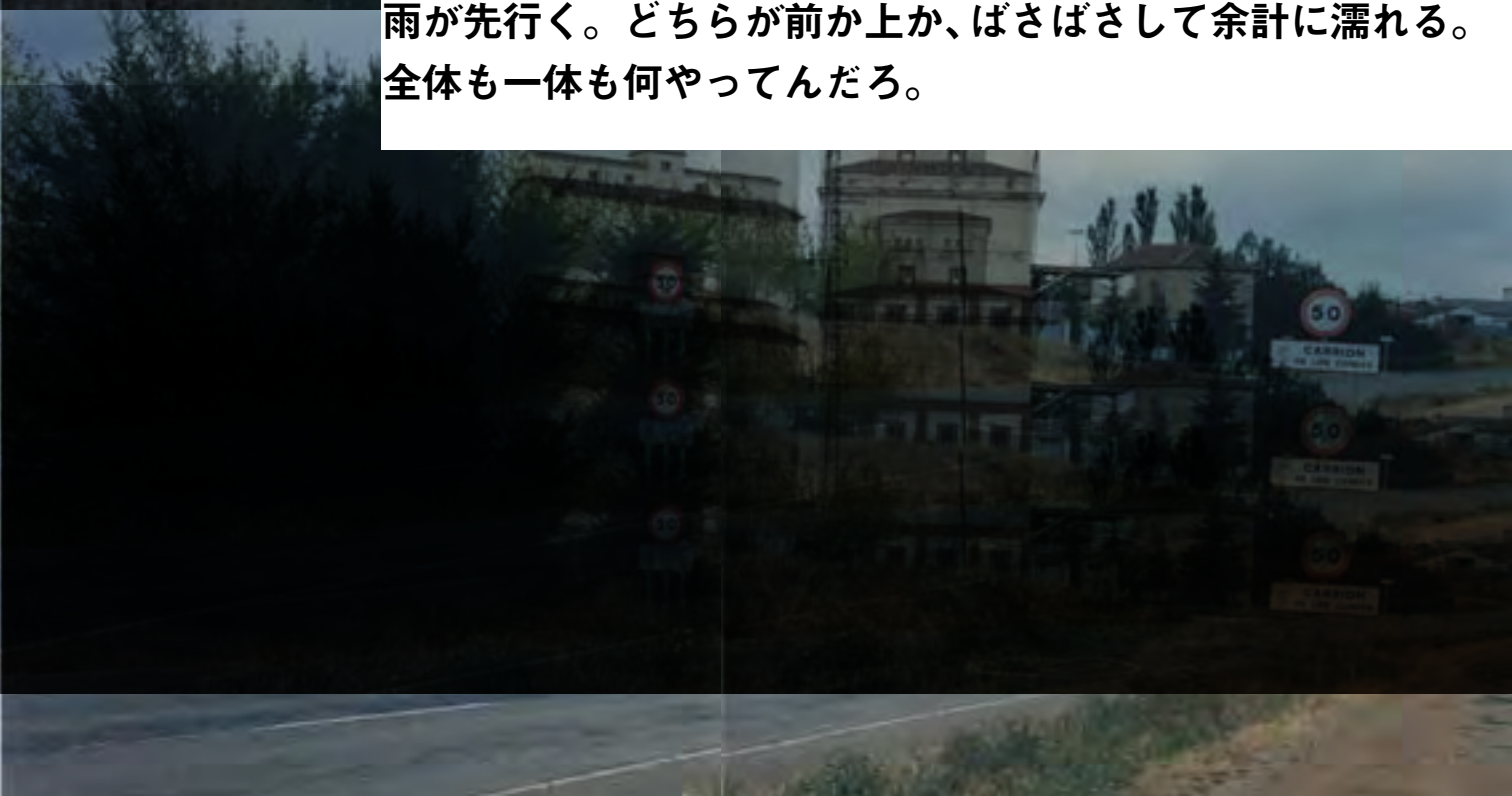
両腕にムック、エッシャー、デュシャンの刺青を入れた彼Christianoと魅惑の彼女Noemi他イタリア会との昨日の夕食は愉しかった。4本のナイフと1個のコルクを使った頭の体操や手を開いたまま瓶を持ち上げる手品(最後は床に落として粉々)、仕込み有りスプーン曲げまでも。消灯後、一番やってはいけない夜の縦笛。あほ◎。walking on the moon... スティングの歌声がバーのスピーカーから。ぐっとくるもすこし照れ臭い。昨夜から一転、7人だけの穏やかな夕食。交代で後片付け。最初に洗って外に出て煙草吸って戻ったら、まだ松尾とリトアニアの天使のおばさんがグラス割ったりして、奮闘。傍らで若いジャーマンカップル、代わりもしないで話に夢中。着火、見過ごすかぼけ。





18 16 Sept. **26.6km**

ポンチョ。言葉の響きが良い。が、未だ一人でちゃんと着れず
雨が先行く。どちらが前か上か、ばさばさして余計に濡れる。
全体も一体も何やってんだろ。



19 17 Sept.
24.1km





蠅にやられてんのに蜂に勝てるわけがない。

Federicoはアルベルゲ近くの空き地に持参したテントを張り、昨日空き瓶に詰めておいた残り物のスパゲッティを食べる。

「真夜中そっと部屋に忍び込み、床で寝ろよ」と言う友人Andreaの誘いを断る。

人の間の微かな気配。どっか行けよ蜂。



20 18 Sept.
24.3km

空腹が頂点。
シエスタ前、駆け込みパエリア。
一口三口…がつつくも最後は飽きた。



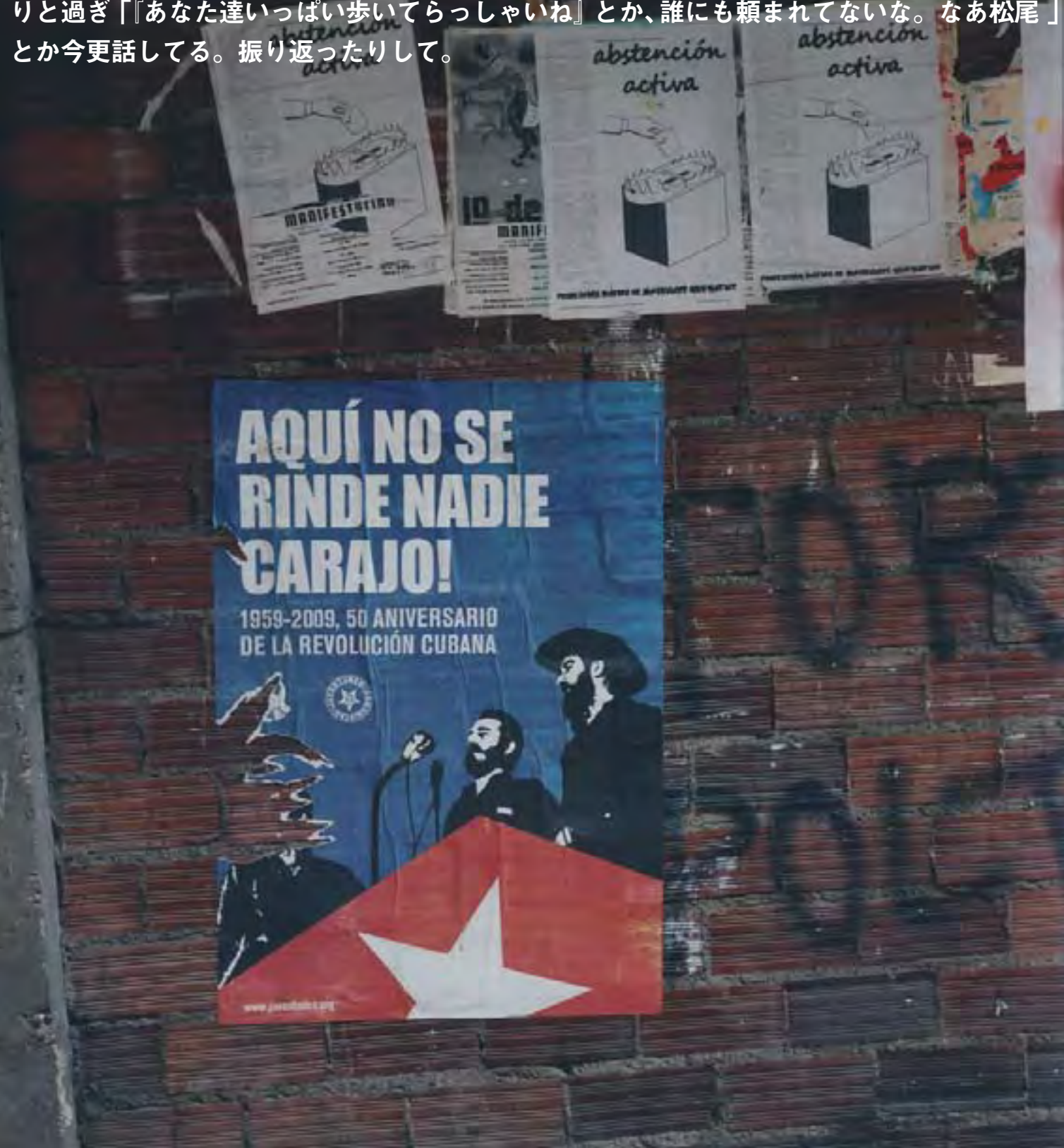
21 19 Sept. **27.2km** 秋か。朝の気配が変わる。次の町まで救いのバーが一軒も無い劇的でない20km。林檎とビスケット頬張り進むもかったるい。松尾はHなこと考え歩いていたと。賢い。そうすりゃ良かった。





22 20 Sept.
20.3km

青いと決め付けていた朝の陽も随分黄色い。色温度ってあるんですよ、知ってますか。健脚な Carina はしゅっとしてて、すっって行ってしまった。もう遇えないけれど仕方がない。キューバ革命から半世紀、チェよりも生き続け起ち続けるフィデルの凄み。大きな街レオンをあっさりと過ぎ「『あなた達いっぱい歩いてらっしゃいね』とか、誰にも頼まれてないな。なあ松尾」とか今更話してる。振り返ったりして。



Carina



23
21 Sept.
22.8km



右の穴からだけ鼻水。
夜明け過ぎカメラと指先のどっちも冷たく構えることさえ厄介。
昼間との温度差20℃強。
太陽が背中斜め上に位置する頃、蓮っ葉な女の子が働くバーに長居する。



Un ángel de Lituania



Luca の望みは人命を救助する職に就く事。

maahou

メレンゲ乗った小振りなパイ
€1で8個も買えるもんだからどれ
にしようかと迷い、じかに手にした
ものをやっぱり違うなと戻したら
「駄目でしょ」と松尾に叱られ慎重
に選び直す。毎日の手洗いの
洗濯からの解放を望む。この辺
りから Cerveza の 銘柄 が San
Miguel から Mahou に、ゆるや
かに変わるもあいも変わらず浴び
るほどに飲む。



maahou



24 22 Sept.
27.4km

昨日松尾の嗅覚で決めた牧歌的なアルベルゲにて、
ダニが松尾だけをいやっているほど嘔む。
屋根無く外壁と扉だけが残る
石を積み重ねた家を前にして、
三匹の子ブタの他二匹の家は
わらと何だったっけ。木か。
標高1000m、村の名前エルガンソ。
馬鹿なことをするって意味。







25 23 Sept. 24.8km

標高1400m石ごろごろの村フォンセバドンに虎じゃなく豹柄 Anronellaとブラジル、バイーアから来たから踊るよそりゃのGalleriaに角。新しい出逢いで浮かれてんのに松尾現れず村すつとばしやがった。「とばすか普通」責めるも一昨日のダニに173箇所噛まれたと聞きそれは可哀想。数えたことに驚いたけど。インターナショナルスノーリングマンと呼ばれる位にでかくかくいびき。雑魚寝男女が体型性格無関係無制限無自覚に夜毎合唱、狂おしく輪唱。1500,1200,900 m急勾配を意思じゃなく駆け降りる。良い音色で口笛を吹いたのに黒犬は近づくの途中で止めた。坂道でごぼう抜きしたフランスのおっさんおばはん観光巡礼体験団は夜喧しくボンソワール。そこはブエノスノーチェスもしくはグットイブニングだが。かたくなな人達こんばんは。

Anronella



Galleria





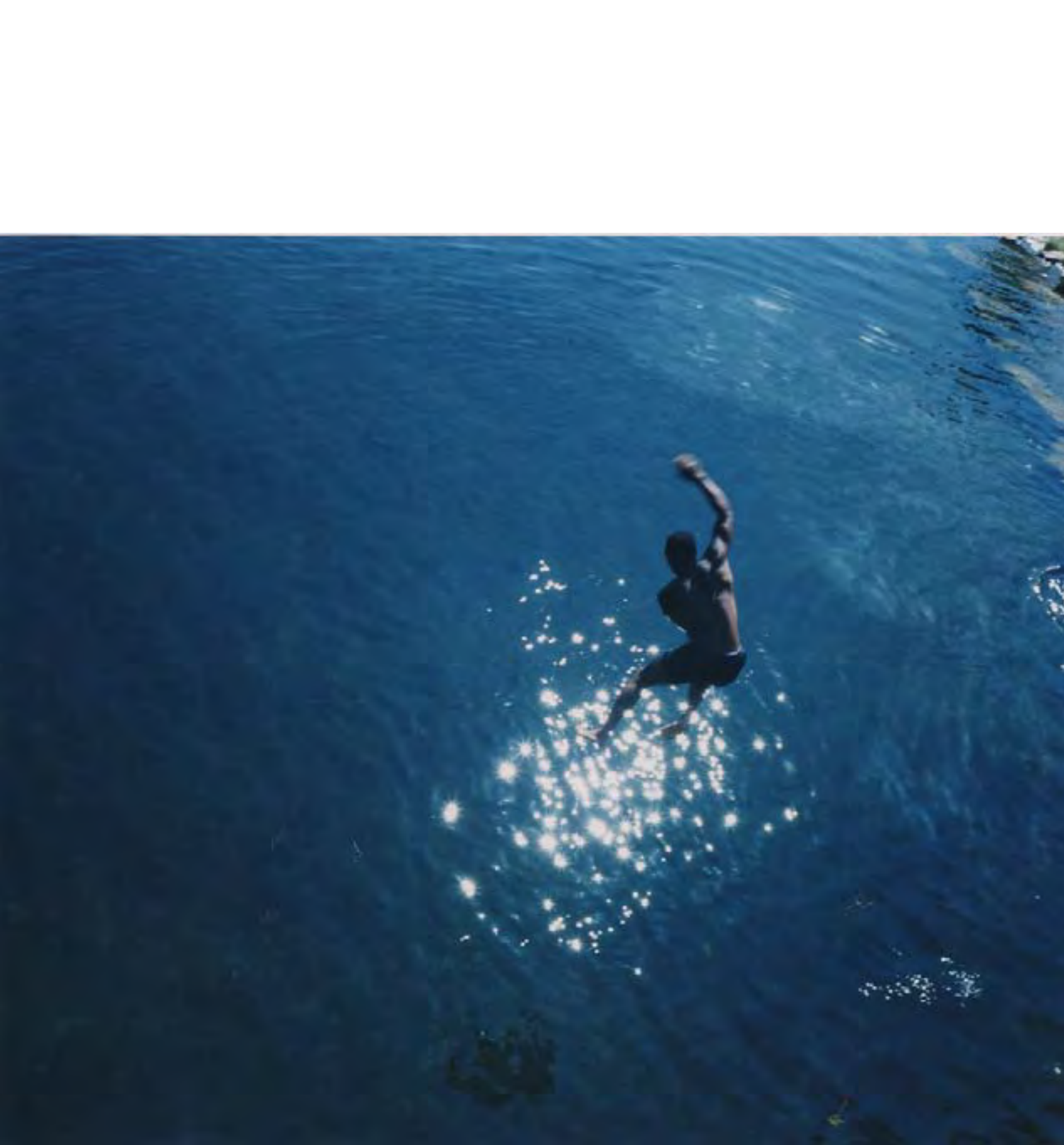
26^{24 Sept.} 26.5km

朝、温厚な松尾の右耳が
福耳になっていて珍しく怒ってる、
ダニに。
更に左足も痛み薬局へ。
「アロマオイルがどうのこうの」
じゃなくて必要なのは
湿布薬とかサポーター絶対。
なんだろうこいつのこの慌てず無垢な感じ。
標高400mまで下り気温32℃。
懐かしの麗しの葡萄畑が
視界の200度を占め、
残り160度青空。
その中に自分一人ぐらつく。
Dennnnnnnnisと再会抱擁。
仲良しも増えて輪になって。









27 25 Sept.
21.7km

大きな栗の木の下であなたとわたし仲良く遊びましょう
大きな栗の木の下で。
繰り返し見上げて歌う、少し跳ねて。
600km越えたな。







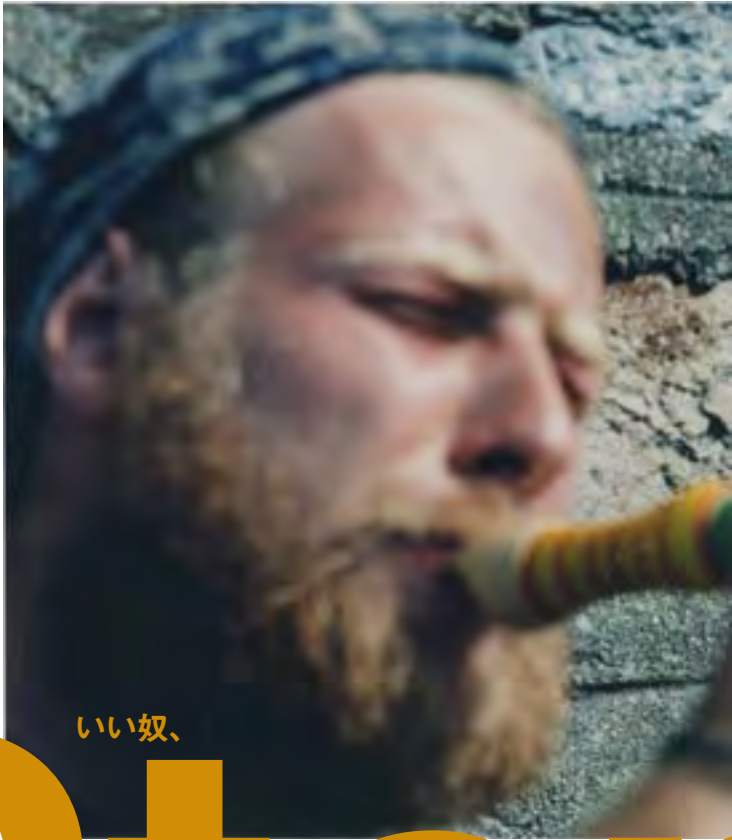
28 26 Sept. 21.9km



Honey

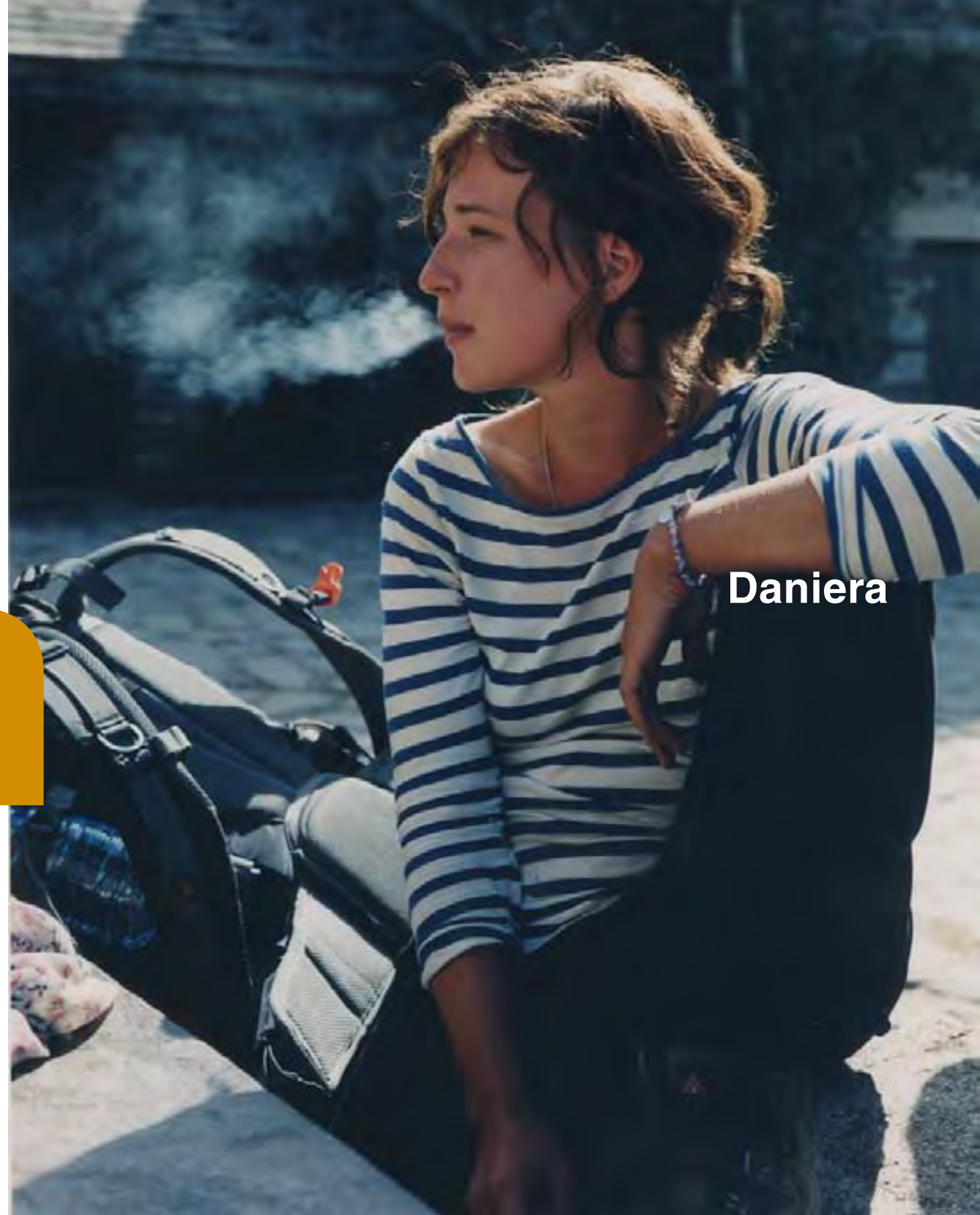
オランダのユトレヒト、「家の玄関を出て100日目よ」とHoney。
地は続いているから、何にもとらわれなければ単純に純粋な一歩。





いい奴、

Stepan



Daniera



29 27 Sept.
22.0km

杖無しでよくここまで来た。見下ろす町の名サモス。
大きな教会内の小さなアルベルゲ。機嫌の悪い小さな管理人、
賛美歌には用がない。





30_{28 Sept.} 29.3km

霧が景色を覆い隠し道見失い元に戻る。

後日談だけど拾った野ねずみをポケットに入れ飛行機で国に帰ってった可愛い娘Daniera。

二週間振りの穏やかな大男Edwald。今夜の寝床はレストランの空部屋。

紙のテーブルクロスに落書きと筆談、団欒六カ国。





Edwald



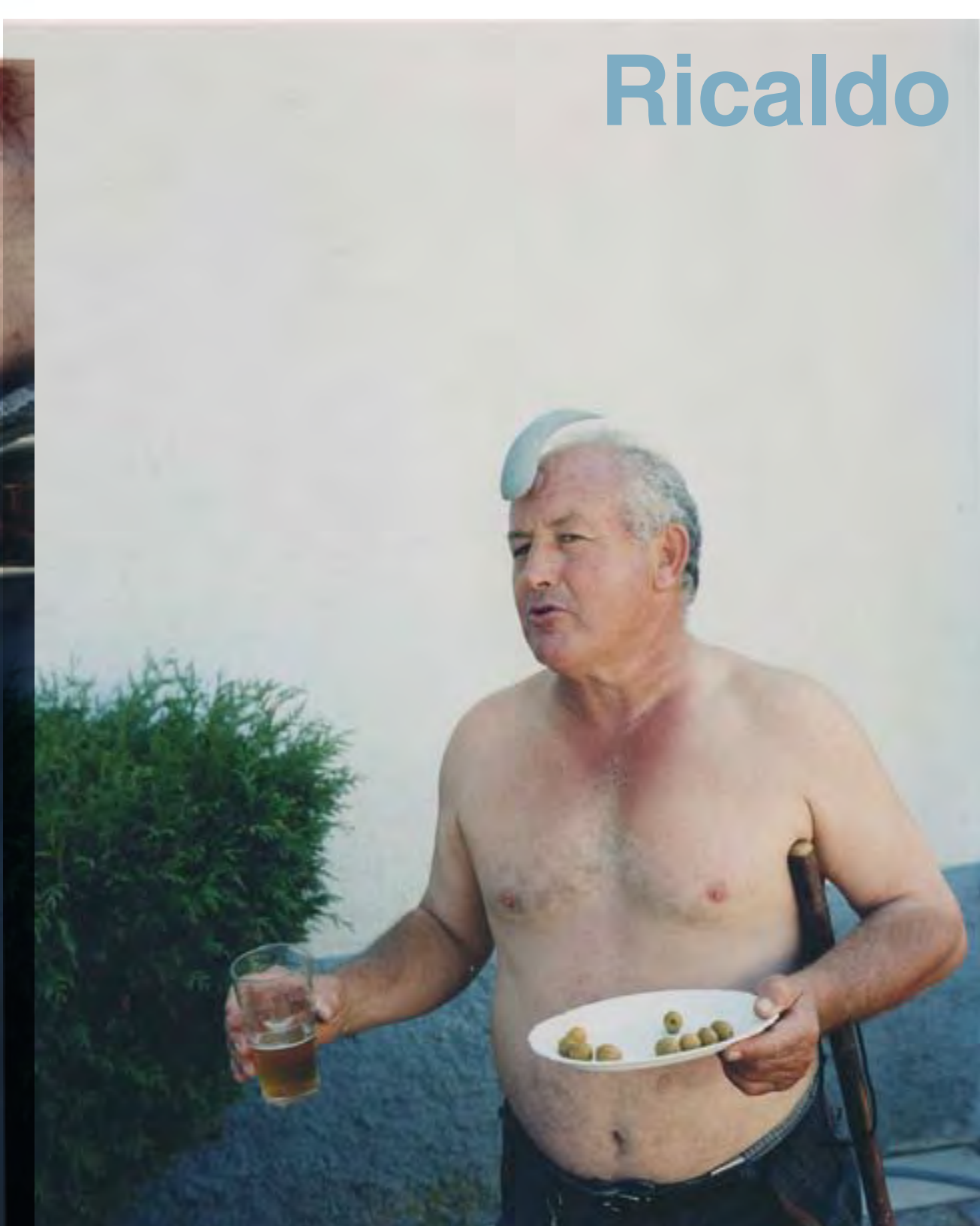


31 29 Sept. 21.1km

サンティアゴへ100km切ったけどその先の海まで行けるな。
もうすぐ孫が産まれるオリーブくれる Ricaldo へ角。
願掛けを兼ねて歩く義理の息子でもある愛娘の若い夫に同行し見守る。
腰にぶら下げたキーホルダーには出産を間近に控える娘の幼い時と、
若い時の我が妻の写真がそれぞれの面に。どちらかが表でも裏でもない。



Ricaldo



Estrella G



32 30 Sept. 27.8km

馬鹿でかい古い車、印画紙、煙草、どれもとても大切が風雨にさらされている。荒野。Lorenzo、Michela、Elisabettaの三人は今日で歩くのを止めバスでサンティアゴへ。イタリア半島の西サルディーニャ島に「太陽も一緒に持って帰るよ」涙なんかなく笑顔で見送る。別れたあと本当に曇り、雨になった。九月が終わり十月が始まる。





Lorenzo, Michela & Elisabetta











写真を^{なりわい}生業にするとは思ってもみなかった。
ましてや暗室作業をするなんて。偶然が転がり必然になった。
森の林の木々の葉の、緑。帰ったらたくさんプリントしよう。



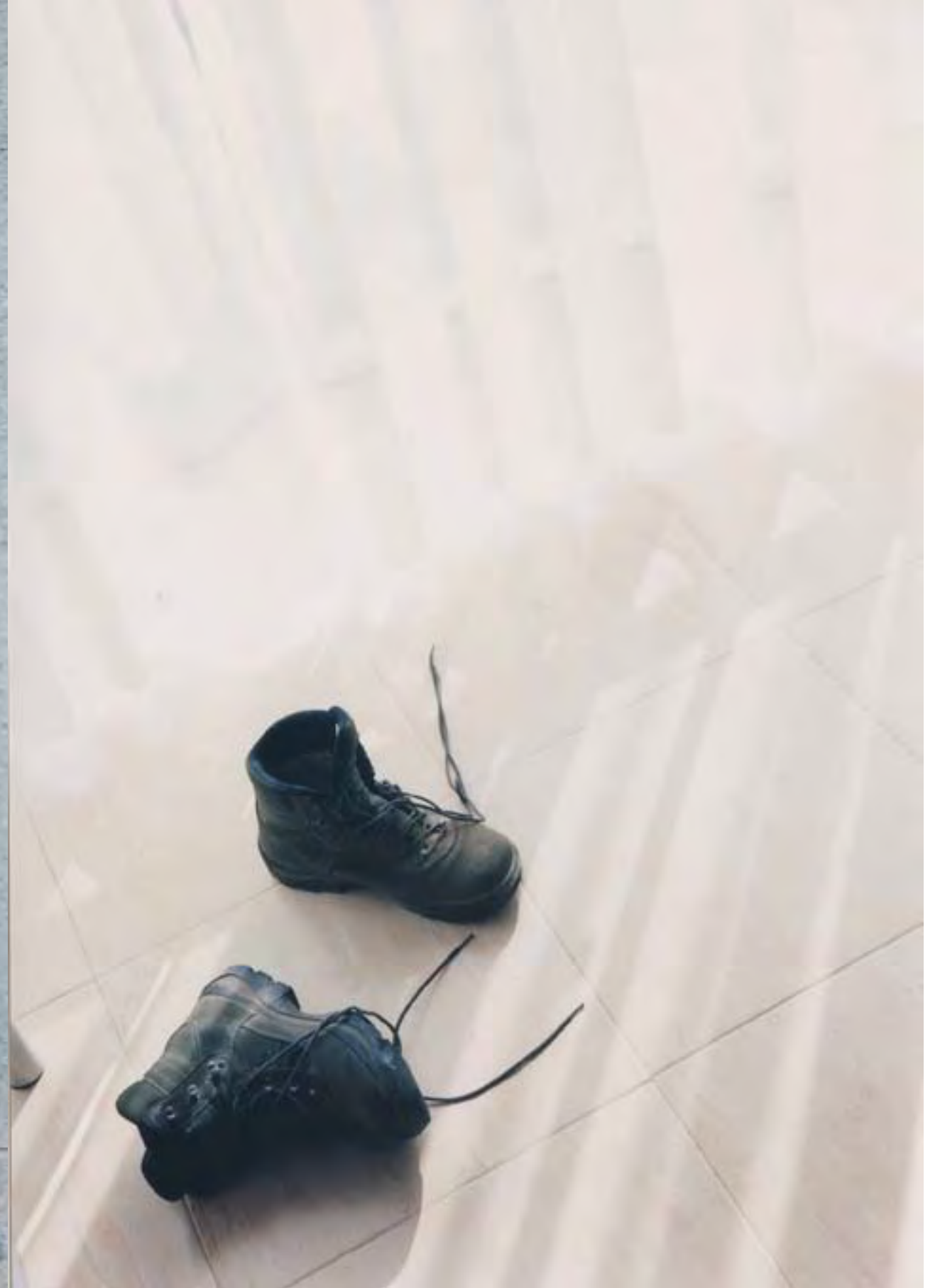
33^{01 Oct.}
20.0km

RESTAURANTE

ENTRADA



Alejandroの妹
Joanna

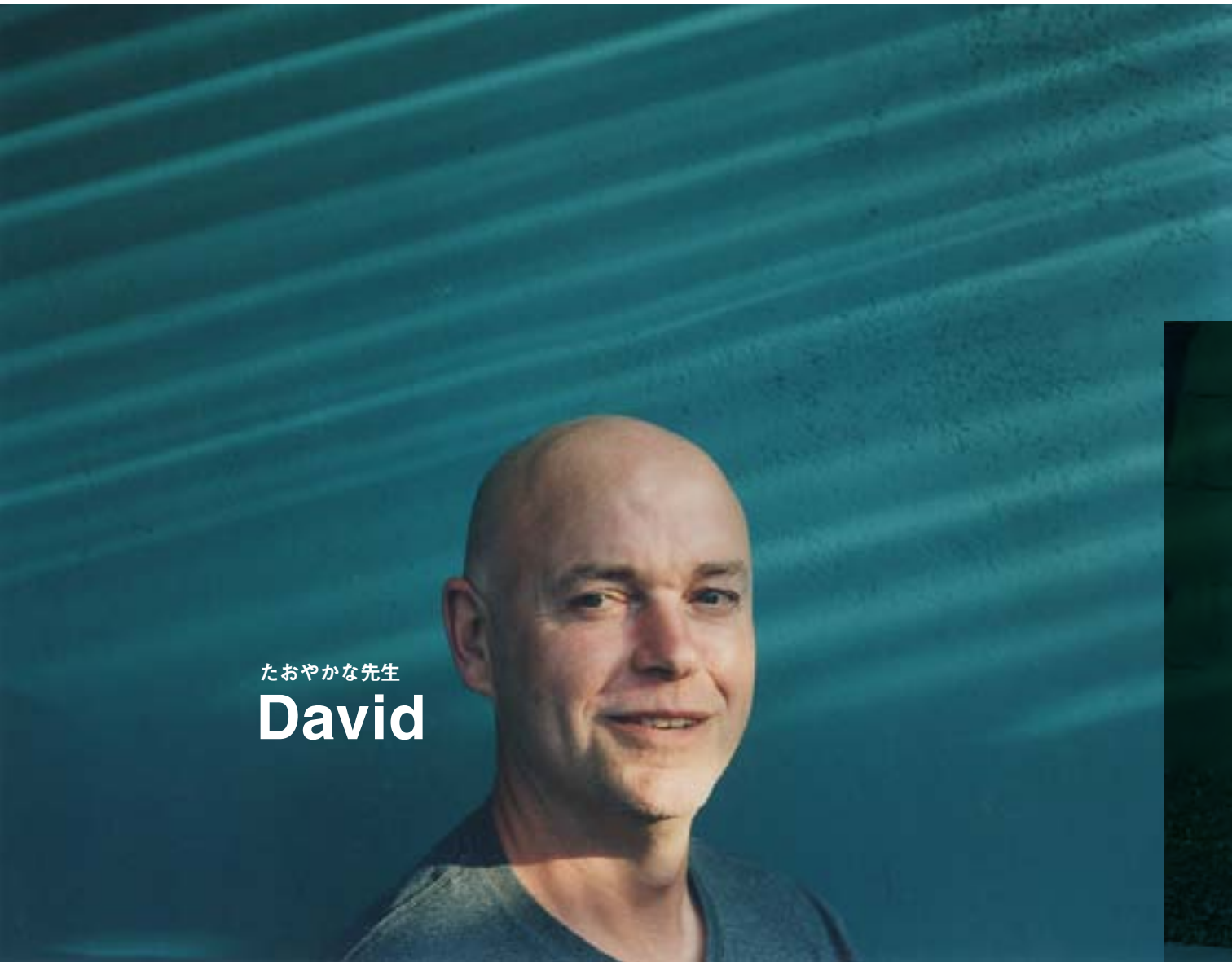




34 02 Oct. 17.8km

行く手を阻むのは牛。じゃなく牛からすれば人。





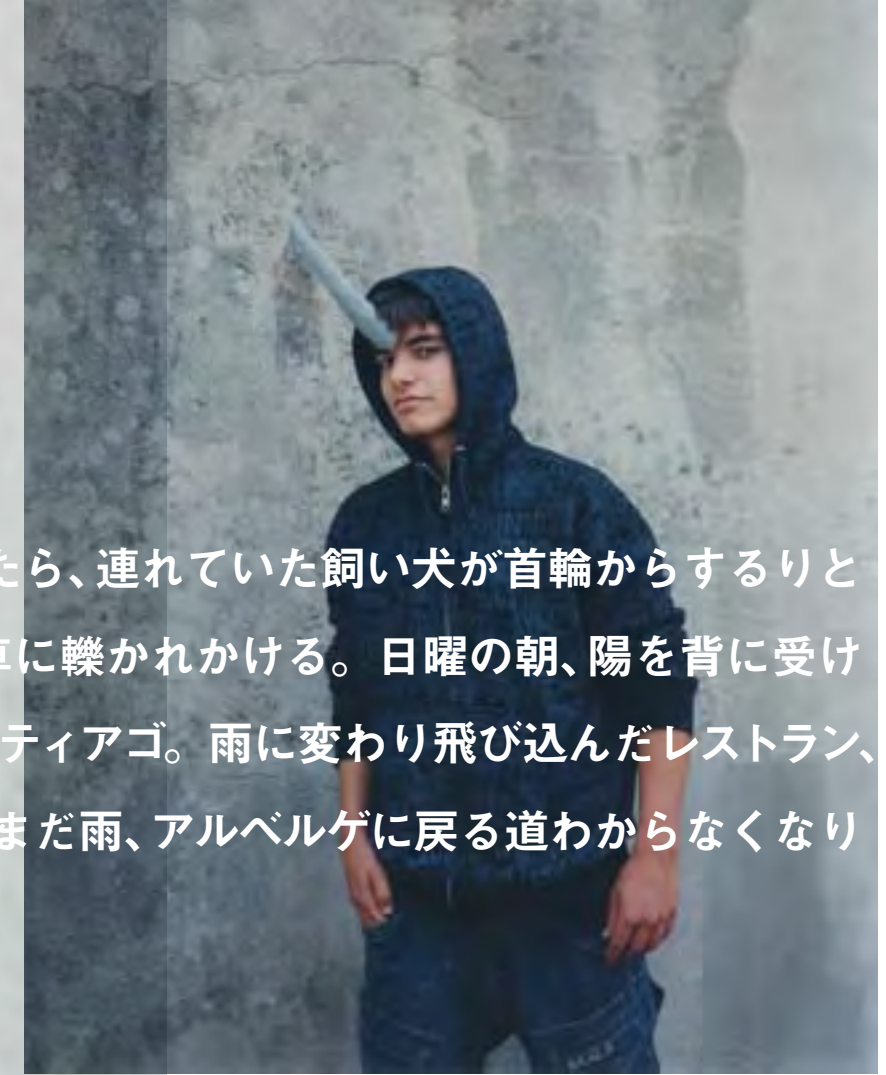
たおやかな先生
David



35 03 Oct.

26.5km

始めの満月が徐々に欠け新月になりそろそろまた満月になる。自宅近くを散歩するAlexに角つけてたら、連れていた飼い犬が首輪からするりと抜け車道に飛びだした。も少しで違う意味の巡礼になるところ。直後今度は自分が別の場所で別の車に轢かれかける。日曜の朝、陽を背に受け街に入り、達成をどう喜ぼうかと思い描き巡らせていたのにあっけなく着いてしまった土曜の午後サンティアゴ。雨に変わり飛び込んだレストラン、ここが気に入る。持参したガラムの煙草が切れ5,6日、他の煙草試すもぱっとせず。夜、酔っぱらう。まだ雨、アルベルゲに戻る道わからなくなり33日振りに乗り物、タクシーに乗る。



Alex





午前10時30分聖堂内十字中央祈りのなか、高く吊るされた香炉が煙吐き左右大胆に振り子の如くぶわんぶわあんのはず。天井見上げ口あけ待つも動かず。あほらし。ちなみに右の人がヤコブなんだろうな、これが巡礼証明書。



初めて同じ街に連泊、今夜はホステル、ホテルじゃない。初めての一人部屋の洗面台を前にして思う。製造者と採用者の両者、どのツラさげてこの驚きの小ささに決めたのか。顔洗うとまわりびしゃびしゃ、そらそう。濡れる石畳3度目のポンチョ。400km、テント暮らし25歳Hoseもポンチョ。左脚引きずる犬Mauiもポンチョ。多くの巡礼者はここで歩くのを止める。明日から懲りない馬鹿二人は再び道へ西へ海へ。

Hose

Maui





37 05 Oct. **22.3km**

狐の嫁入りは良いな。

浸る間無くどしゃ降り、一歩が重い。
煙草の吸い口をプリンのカラメルソースに
浸してみたらガラムっぽくなり悦に入る。



38 06 Oct.

37.8km

バックパックからカメラが入ったサイドバッグが外れて落ちて後ろ足で蹴り上げ濡れてる道に転がった。写真どころじゃなく強い雨と濃霧にとことんやられ松尾ともはぐれた。随分経ってずぶ濡れて「¡Hola!」ってあいつがアルベルゲに現れた時、初めて泣きそうになった。



39 07 Oct. **30.1 km**



Kazuya Morishima



横殴る雨ばっかここんところ。フィルムを必死で守る。いまさら右脛が腫れて痛く鼠色の空に向かって吠える。支えてくれている優秀な靴の中にととう雨水浸入、許してないのに。下りの山道木々の切れ間、あれっ海。明日のはず感慨無量の大西洋は。たぶん男気一杯建築関連の会社経営者。広大な敷地内の空き部屋「巡礼者、好きに使っていいぜ」そんな今夜の殺風景なアルベルゲ。たぶん建築関連会社肉体労働者からスタンプを貰う。余白無くなり味がでたクレデンシャル、このスタンプラリーもそろそろ終わる。



Hitoshi Matsuo

DE LA HALTE
SELLOS



27-9-09



28-9-09

DATE ET CACHET DE LA HALTE
FIRMAS Y SELLOS



Casa Cruceiro
Ferreiros
km. 98



29/9/09

CERVECEA ORDIS s.c.
C.I.F.: J-770.183.108
Rúa Alexandre Boveda, 13
15800 MELIDE (A Coruña)

1/10/09



1/10/09



30/9/09

RESTAURANTE
O MIRALLOS
Camino de Santiago
MIRALLOS - PARADELA

28/9/09



29/9/09



29/9/09



Casa Porta de Santiago



San h Polo, 21
15820 Lavacolla - Santiago
Telf. 98 91 897 124

30/9/09

DATE ET CACHET DE LA HALTE
FIRMAS Y SELLOS

Cafeteria
DAKAR

Franco, 13
Telf. 981 578 192
Santiago de Compostela

4/10/09



3/10/09



04 OUT. 2009
CAFE-BAR

Casa Pancho
NIF 33.248.516 - S
TRASMONTE - AMES



5-10-09



04/10/09

CARNET DE PÈLERIN DE SAINT-JACQUES

"Credencial dal Peregrino"

Novo

Antonio Ribeiro Carrión

6/10/09



Casa Talleiro

Tif: 981 74 52 14
Camino de Chans - Bens - CEE

HOSTAL RESTAURANTE
PLAYA ESTORDE

8 OCT. 2009

Les Amis du Chemin de Saint-Jacques
Pyrénées-Atlantiques



08. outubro. 09

39, rue de la Citadelle
F-64220 SAINT-JEAN-PIED-DE-PORT
www.aucœurduchemin.org
www.compostella.fr
D.M.L. 79.310.827 - L
C/ San Roque, s/n - 15155 FINISTERRE

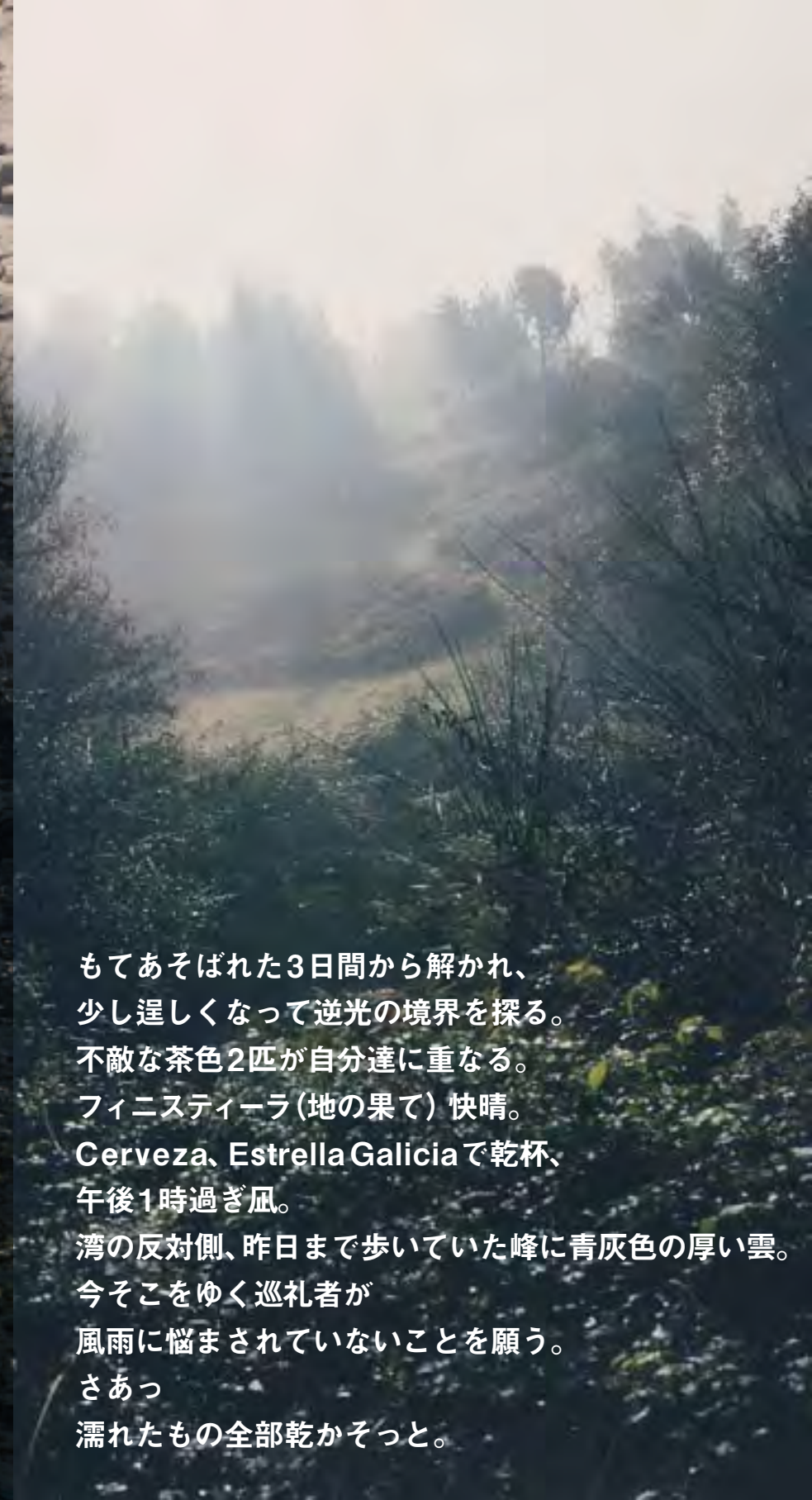
8-10-09



40^{08 Oct.}

23.7 km





もてあそばれた3日間から解かれ、
少し遅くなって逆光の境界を探る。
不敵な茶色2匹が自分達に重なる。
フィニスティーラ(地の果て) 快晴。
Cerveza、Estrella Galiciaで乾杯、
午後1時過ぎ風。

湾の反対側、昨日まで歩いていた峰に青灰色の厚い雲。
今そこをゆく巡礼者が
風雨に悩まされていないことを願う。
さあっ
濡れたもの全部乾かそっと。



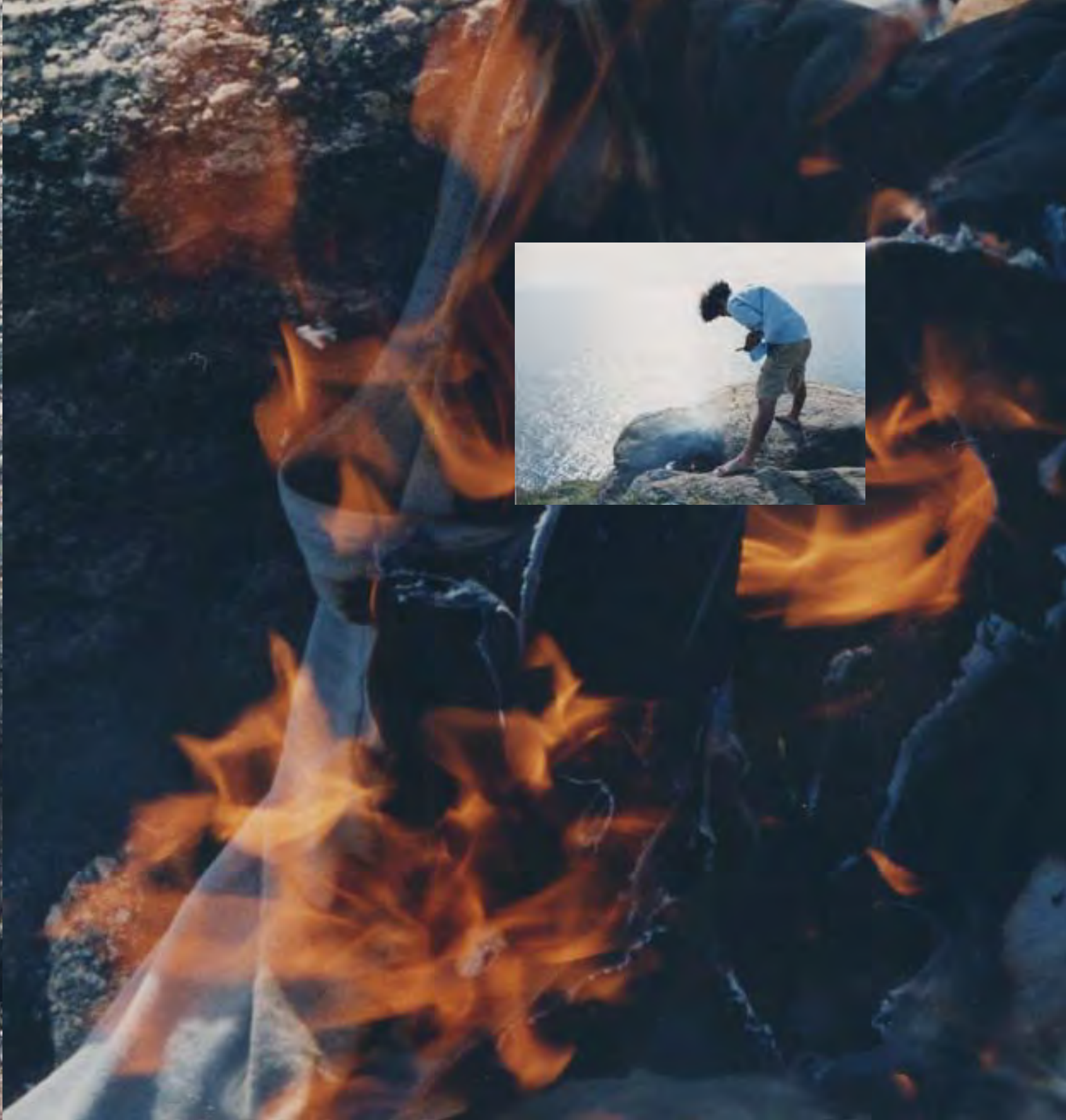
41 09 Oct.

15.7km

岬まで片道4kmなだらかなスカイラインをサンダルで登る。光を吸い緑色と底の黒を混ぜた塊の海。拡散する青の先、しなり滲む水平線。突端の真下をのぞきこみ、イベリア半島を横断したことを実感する。背中
の部分が擦れて毛羽立った七分袖のTシャツ3枚を礼と共に燃やす。







42 10 Oct. 21.2km



7時間待った。小雨になり見切って出た途端に激しく降る。海辺から霧霞む森へ。いったい何回目なんだか、迷う。右の脛が疼く。靴を脱ぎ海に近い支流の浅瀬へ。膝下がひんやりとして楽に。道と平行に流れているからそのまま進むも結構な速度で水かさは増し、黒い何かブヨッとした物体までたくさん浮遊し始め仕方なく靴を履く。先に大きな工場が出現し海への排水路と知る。誰も見当たらない海。






43 11 Oct. **25.4km**

Muxia Santuario da Virxe da Barca (船の聖母教会) 波が大きな岩を削り片っ端から楕円に変える。最終の地、巡礼の完成。





44 12 Oct. 17.4km

am 7:30 発サンティアゴ行きのバスを6分差で逃す。さして急ぐ事もないから次のpm 6:45 発まで日向ぼっこでもして待つかという提案に松尾は応じずタクシーで先に向かうと決めた。明後日の夜パリでおちあう約束をして別れる。おもしろいことになった。日がない日向ぼっこ夕方一人呆然。待ってたバスは来なかった。野宿も覚悟したが特例でアルベルゲの連泊を許してもらう。明日の朝バスを絶対逃さない為にも停留所までの道を慎重に確認。なんだ、なんてことない。どんと坂下りて右に曲がり突き当たり海が見えたら左。今朝、まったく違った方角へ脚を引き摺り乗り過ごすまいと走ったあれは、なんだったんだ。もう寝よ。





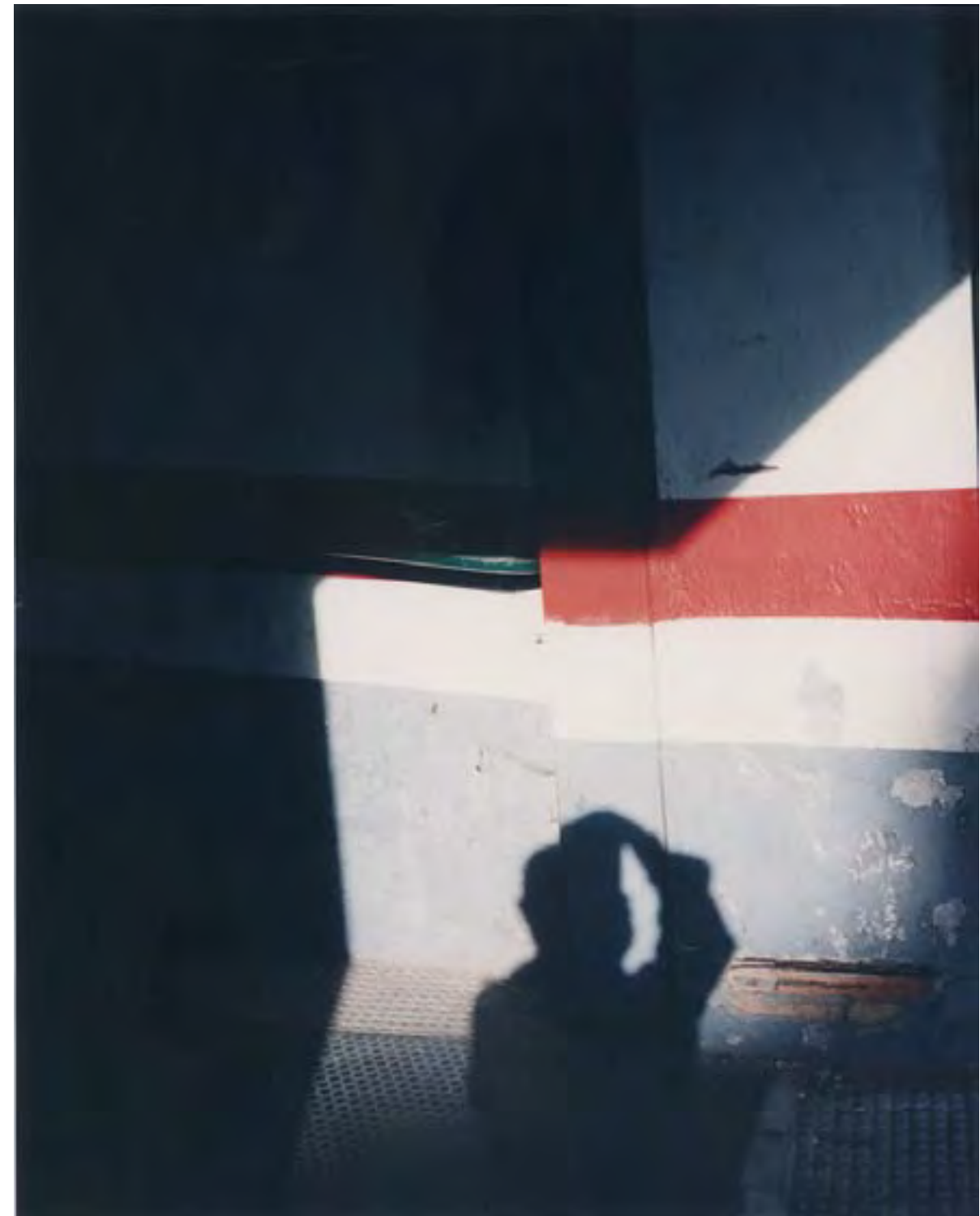
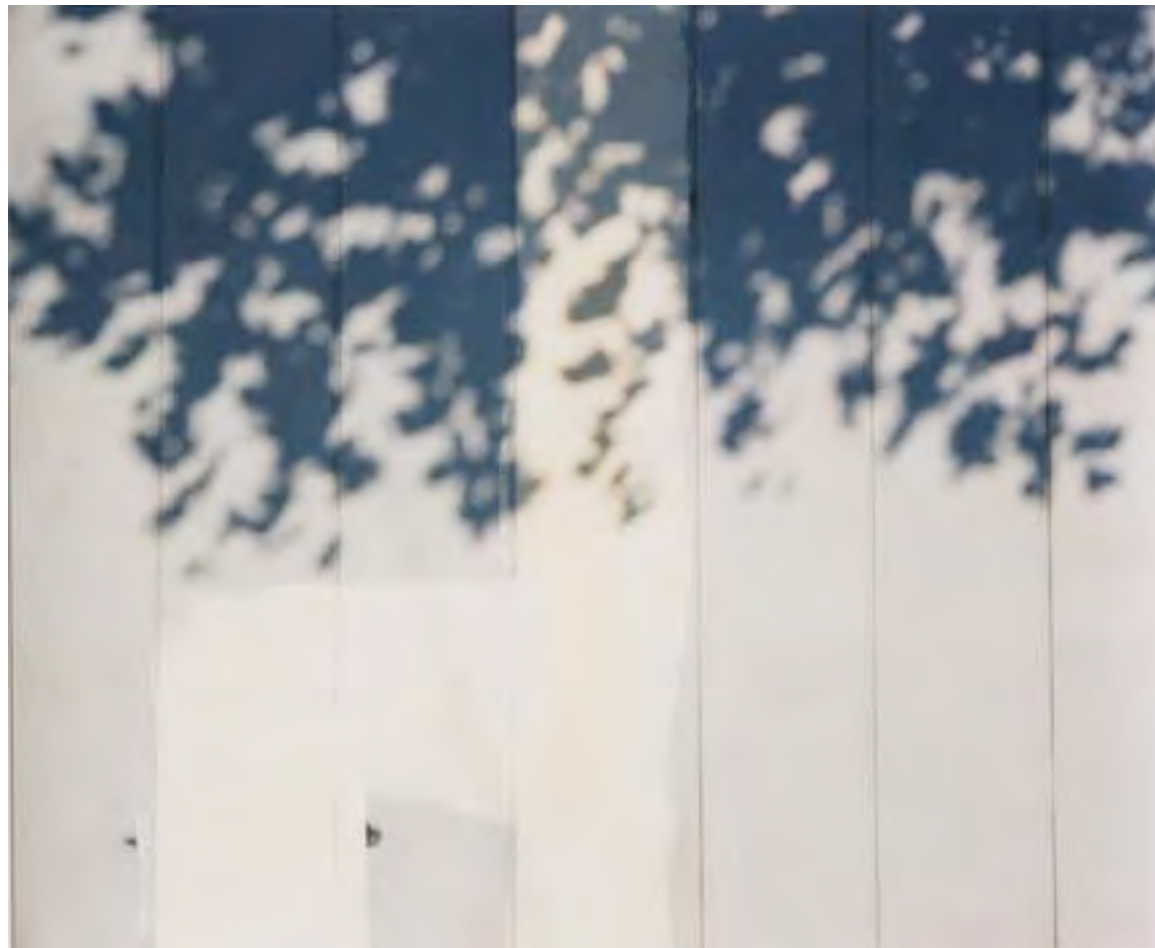
45 13 Oct. 9.6km

車中から見える東の空にかかる雲は、昇る太陽受け紫と橙に染まり海月の様に浮かぶ。たった2時間あっさりサンティアゴに着く。バスターミナルから中心へと向かう路地の途中でアップルパイと野菜ボカティーヤを買う。空港までの道を尋ね煙草屋でメンロール2箱、トキオという名の店でカフェコンレチェ。授業終わりの高校生が歩道に溢れam 11:39連なる土産物屋をのぞく。以前に宿泊したアルベルゲに着き身体を洗い洗濯を済ます。溶けたチョコレートプリンに40本全部煙草の吸い口を突っ込む。網の無いサッカーゴールを撮ろうとしてたら、上の校庭から子供達と先生らしき人の声。下に落ちたサッカーボールを取ってくれて。何度も懸命に投げやっ
と届くも間髪入れずにドッジボールも。公園で顔を洗う。Estrella Galicia 4本目pm 4:00教会の鐘、どっかの町で食べた虹色のアイスキャンディを片手に持つ男が前を横切る。誰彼なしに¡Hola!
声掛け合うことが少なくなった。何をして過ごすかと考えていた3日のうちの昨日と今日、たいしたことしてないなと思うけど、じゃあたいしたことって何、とも思う。

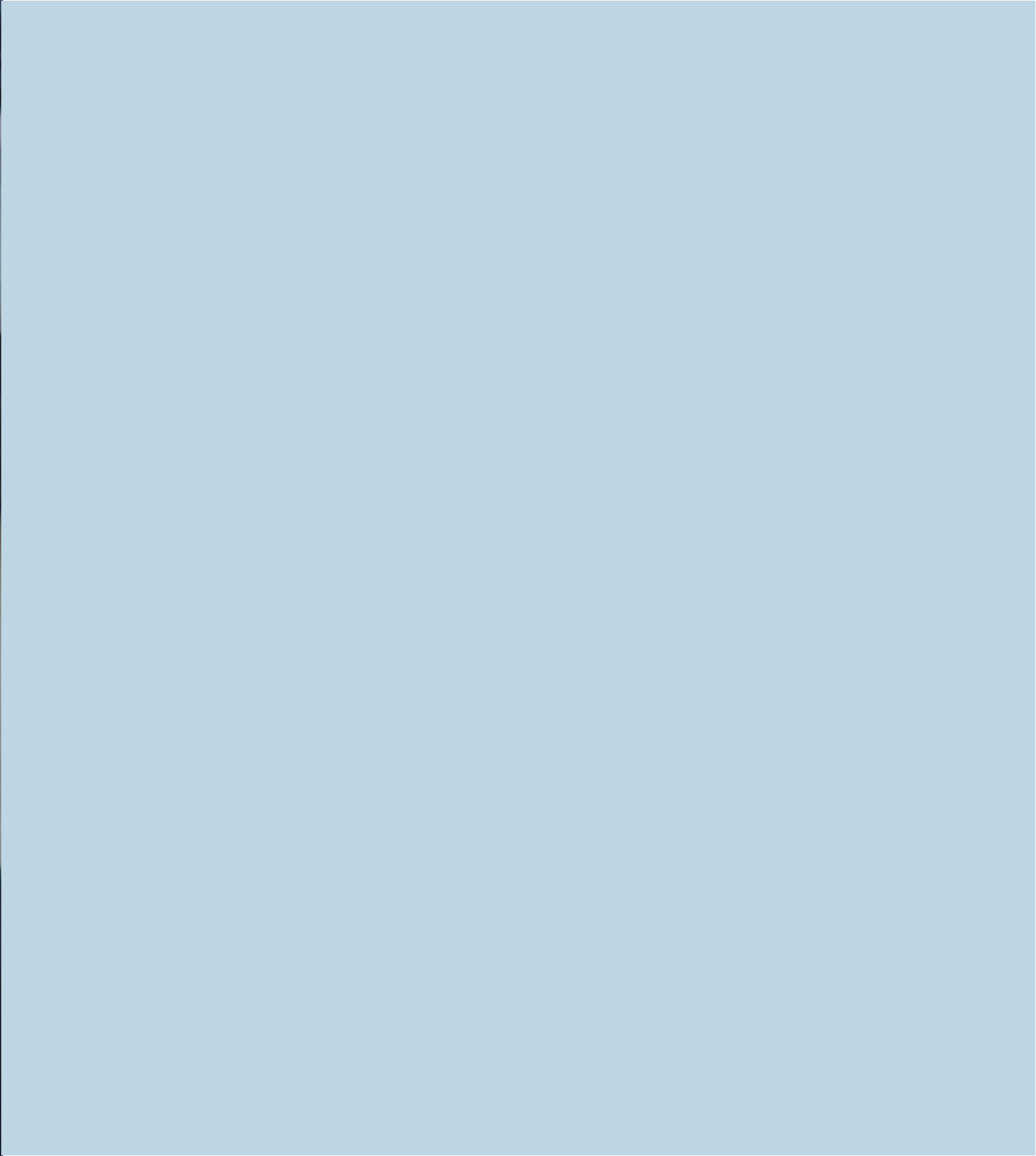


46 14 Oct. 10.0km

11日前サンティアゴに着いたときは逆向きに街から空港までの10kmを歩く。歩くという行為が少し名残惜しく悪足掻き。前方からの巡礼者何人かとすれ違う。晴れ。とうとう空港に着いてしまった。靴の中敷きを捨てる。計300本ぐらい飲んできたであろう Cerveza をらっぱ飲みしながら頭刈ってたら警備員に笑われた。空港職員は嫌がらずに88本のフィルムをハンドチェックしてくれた。パリ行きの搭乗前、ポルトガルを楽しんだという松尾が、ふわっと現れた。







48^{16 Oct.} 0km

都内へ向かう高速道路の標識を仰ぎ見て成田から
都内まで歩けば3日か、なんて車中から思う。

47^{15 Oct.} 0km

朝、パリのホテルの玄関前。空港への送迎車の席を
我先にと奪い合う宿泊客達。仕切れない仕切らな
い運転手。低い大人の群れ。いや、しかしここは
ぐっと慈しみの心持ちで穏やかに。

48 días
1033.9 km

朝、事務所訪ねるでしょ、
さっと丁寧にいれたお茶でてるでしょ、
なだらかに作業の準備が整うでしょ、
それから横に座ってモニターに向かって、
あーしてくださいこーしてください、
あーもしてくださいとお願いすると、それを踏まえて、
ぱっぱっぱっぱと1ページ1ページの的を得て作っていつてくれるのです。
美しい本が大好きな、斉藤さんとはそういうひとです。

especial gracias

**ASUKA OCHI
ATSUKO SAEKI
CASH
DENNIS MILES
ERIKO SEINO
HIROYA ISHIKAWA
HITOSHI MATSUO
HITOSHI OKAMOTO
IZUMI SAITO
JUNMARU SAYAMA
KATSUMI WATANABE
KAZUMI SHITARA
KEIICHIRO FUJISAKI
KEISUKE TAKAZAWA
KOJI ISHIGAKI
MASAKI KURATA
MASAZO YAMAMOTO
MISATO SAGA
NAO OKAWA
NATSUKO SUGANUMA
RO TAJIMA
SUZUKO HATANAKA
TAKAHIRO UMEZU
YAKA MATSUMOTO
YOSHIHIKO TODAKA
YOSHIKAZU KASAI
YUICHIRO HACHISUKA
YUKIKO KUSANO**

**photographs
&**

el texto

por

Kazuya Morishima

diseño

por

Izumi Saito

<http://www.kazuyamorishima.com>

<http://rhymeinc.com>

Copyright © 2012-13 Kazuya Morishima Rights Reserved.